



学校だより

児童数：630名（男：343名 女：287名）

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに

保護者から
いただいた
龍の切り絵

「GRIT」グリット（やり抜く力）で 今年の目標に少しずつ進んでみよう

校長 戸野塚 晃

あけましておめでとうございます。令和6年、新しい年が始まりました。今年も地域の皆様、保護者の皆様にとって、実りある、幸多き年になりますように願っております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、新しい年をスタートするにあたり、目標や希望を掲げることはよくあることです。学校でも今学期の目標やそれを達成するためにどんなことに取り組むのかを発表させたり、記入して掲示したりします。ご家庭でもそこまですでなくても、家族での話の中で会話されたりすることがあるかもしれません。

そこでですが、「GRIT」グリット（やり抜く力）という言葉をご存じでしょうか。

- 1 Guts（ガッツ）：困難に立ち向かう強い気持ち
- 2 Resilience（レジリエンス）失敗してもあきらめずに続ける粘り強さ
- 3 Initiative（イニシアチブ）自らが目標を定め取り組む力
- 4 Tenacity（テナシティ）やり遂げようとする執念

本市の教育ビジョンにも掲げられていますが、私が参加したある教育講演会で講師の方がわかりやすく講演され、私自身に腑に落ちた言葉でもあります。元々は、アメリカのある大学の教授が提唱したワードからきているものだそうで、行動意識の中にこの「GRIT」の要素をもっている人は、目標を達成したり成功したりする人が多いという研究からきているそうです。この四つの要素だけを見れば、なるほどと合点がいくかもしれません。多く分野で夢を達成したような方々の取り組みを知ると、おのずとここにあるような言葉を見聞きしますし、それに、そういった人たちの発する言葉にはやはり、強さや強い信念のようなものを感じます。おそらく、私も含め、聞けば聞くほどいわゆる達成者には、こういったゆるぎない意志のようなものを先天的に持ち合わせているのであろうと感じる方が多いかと思います。ところが、この提唱者である教授によりますと、実はこの「GRIT」という意識は、後天的にでも伸ばすことができ、しかも子どもだけでなく環境を整えれば、大人でも成果が出るというデータがあるそうです。

以下、私が聞いた「GRIT」を伸ばすポイントです。

- 1 興味があることに打ち込める環境をつくってあげる
- 2 失敗を絶対に否定しない。チャレンジする気持ちを否定しない
- 3 できる能力より少しだけ高い目標を設定させ、小さな成功体験を積ませる
- 4 GRITの気持ちが強い人がそばにいる環境においてあげる

大人が整える環境で、子どもの夢や希望の達成具合に変化が加えられるのであれば、ぜひ、整えてあげたいと考えるのは欲張りでしょうか。私たちがサポートできること、支援できることは、実はもっとシンプルなのかもしれませんし、それは、我々大人が、口を出しすぎないで見守り続ける力と子どものチャレンジを否定しない我慢強さかもしれません。今年1年、子どもたちが安心して自分の目標にチャレンジできる、そういった環境作りを職員一同そして、地域、保護者の皆様と一緒に進めていけたら幸いです。

本年も何卒よろしくお願申し上げます。